

# 令和4年度第1回社会教育委員会議概要

1 開催日時 令和4年7月11日（月） 午後2時～午後3時30分

2 開催場所 成田市役所 6階中会議室

3 出席者（委員） 日暮健委員長、佐々木英夫副委員長、小林元委員、  
鈴木隆英委員、多田初枝委員、湯浅美智子委員、  
磯前勉委員、齊藤好徳委員、多田美香委員  
※欠席 大徳正博委員  
(事務局) 関川教育長  
堀越教育部部長、小川教育部担当次長  
野村生涯学習課長、中山副参事、成毛社会教育係長、  
平山副主査、大場主事

## 4 議事

- (1) 委員長及び副委員長の選出について
- (2) 生涯学習課所管事業における課題について
- (3) その他

## 5 会議の内容

- (1) 委員長及び副委員長の選出について  
《発言要旨》

事務局から成田市社会教育委員条例の説明を行い、委員長及び副委員長を選出。委員長に日暮健委員、副委員長に佐々木英夫委員が選出された。

- (2) 生涯学習課所管事業における課題について  
《発言要旨》

事務局から生涯学習課が所管する「生涯大学校管理運営事業」の概要説明を行い、生涯大学院のカリキュラムについて、意見や質問を伺った。

斎藤委員：生涯大学院の皆様は、グラウンドゴルフで球技場、陸上競技場をかなり利用されています。資料にも記載されていますように、小・中学校に訪問してコマやメンコなど教えてているということですが、グラウンドゴルフも各学校、各地区で指導を行っても良いのではと感じております。

事務局：これまで行っていた学校への訪問は、昔遊びや、これまでの経験を話すキャリアトークなどに偏っていました。生涯大学院の学生がせっかくグラウンドゴルフを学んでいるので、グラウンドゴルフの指導などもできるか検討していきたいと思います。

佐々木副委員長：生涯大学校と生涯大学院は別物なのですか。

事務局：生涯大学校というのは建物を指しまして、その中で行われている学校を生涯大学院と呼んでいます。

小林委員：入学者が年々減っているということですけれども、対象者である60代以上の人口は増えているのでしょうか、減っているのでしょうか。また、今入学している生徒は何歳くらいの人なのか、年齢層を知りたいと思います。

事務局：まず、現在通っている人の年齢層というところですが、ほとんどの方が65歳以上となっています。対象は60歳以上となっていますが60～65歳の方は、働いていることもありますので、65歳以上の方がほとんどとなっています。また、本市の人口ですが、本市の総合計画である「NARITAみらい」プランに記載されている内容では、本市の老人人口比率は、平成27年度で21.2%、令和2年度で22.5%となっています。本市の人口は、横ばいか微増となっていますので、老人人口比率が上がっているということは、対象年齢としては増えていると考えています。

多田(初)委員：生涯大学院は3年間通うとなっていますが、その理由は何かあるのでしょうか。また、3年間就学した方に何か特別な資格や称号はあるのでしょうか。

事務局：まず、3年間の年数については、生涯大学院は昭和50年代に始まったもので、当時の経緯が残っておりませんが、推測ではございますが、中学校と高校が3年間ですので、そこを意識した年数ではないかと考えております。また、資格の部分ですが、生涯大学院は市の自主事業となりますので、公的な特別な資格はございませんが、3年間通った方には、卒業証書や皆勤賞の授与などでやりがいを見出すような取り組みをしています。

多田(初)委員：千葉県では、似たような事業を1年程度で行っていると思いますが、3年というのは少し長いのではないかと感じました。通う上で3年間というものはハードルが高いのではないかと思い、質問させていただきました。

事務局：実際入学された方の話を聞くと、「3年間は短い」「また入学したい」という言葉もいただきます。さらに、卒業するときは、皆さん泣いて悲しんでいます。たしかに、3年間ということで入学を躊躇する方もいらっしゃると思いますが、3年間という長い期間学んで、体を動かして、仲間を作つていただくという効果のほうが高いと考えております。3年間が障壁となっている部分もありますので、考える部分はあるかと思います。

佐々木副委員長：生涯大学院のカリキュラムを見ると内容が多岐にわたっていて、ここまでできるとしたら、もっと先まで学びたいという人がいると思いますが、再入学はできないのですか。

事務局：はい、生涯大学院の入学は一度限りとなります。

佐々木副委員長：3年間が長いかもしれません、おっしゃる通り横のつながりは広がると思います。仕事を終えた後、人と関わることができる3年間というのはとても良いと思うのですが、3年間の組と短期間の組のような形で分けてよいと思います。短期間の講座は繰り返し受けられ、3年間では深く学ぶというようなことを考えられるのではないかでしょうか。

事務局：年数というのは、生涯大学院のカリキュラムを組むうえで課内でも議論に上がります。単年度のカリキュラムにしようとするとき授業形態を組みなおす必要があることや、再入学を認めてしまうとメンバーの固定化に繋がってしまうのではないかという懸念もありますので、また課内で議論を深めていければと考えております。

佐々木副委員長：広く、いろいろな方に経験していただきたいという趣旨ですね。

湯浅委員：内容も多岐に渡っており、自分自身も時間と余裕があれば入学したいと思っていますが、なかなか時間と余裕がないため、3年間続けられるか不安になります。同じように考えている方も多いのではないかと思います。そういう方々の入学へのハードルをどこで下げるのか、議論していただきたいと思います。無料でここまで参加できて、学べることはなかなかありません。歴史ある講座で、卒業された方々は生涯大学院に入学して良かったと声を揃えておっしゃっています。具体的なアイデアはありませんが、もう少し工夫をされたら、参加できる方が増えるのかなと思います。

磯前委員：私は生涯大学院の卒業生で、37期生です。65歳で仕事を終えて、これからどうしようかなと思っていた時に、生涯大学院の話がでました。団塊の世代でもあり、36期、37期、38期は非常に学生が多く、63歳や65歳で定年を迎えた方が多かったと思います。また、各学年が1組と2組に分かれての2組制になっており、級長などの役割もありましたが、社会で様々な経験をされている方も多く、皆さん進んで取り組んでいました。専門講座では、私は植木が好きだったので、園芸を選択して学びました。1年目は花の扱い方、種の蒔き方を教わり、2年目から畑で実習をして学ばせてもらいました。このような経験をして、36期から38期の皆さんには、市の教育委員会で取り組んでいる生涯大学院は、有難く、とても良かったとおっしゃっていました。60歳過ぎまで働いていて、定年を迎えた後、私もそうですが、何をしたらいいのかと、世間から浮いてしまう。そんな時に、このようなものがあるよということで、私も入学させていただきました。これからは、73歳まで仕事ができる時代になっていますけれども、再度、入学できるようにしてもいいのかなと思います。

事務局：千葉県生涯大学校も修学期間の見直しを行い、1年間だったものを1年間と2年間の2コースを用意して、ハイブリッドに編成をし直しています。また、就学期間を1年間とし、幅広い分野の学びを多くの方に提供できるようにしている自治体もありますが、有料の事業としている自治体も

あります。当市では、教材費は実費ですが、授業料を 3 年間無料としているので、3 年間深く学んでいただきたいと考えております。いただいたご意見にもございましたように、入学したいと思うきっかけを作れるよう、船橋市では、興味のある方を対象に有料の特別講座などを開催しています。当市でもそういった先進事例を集めながら、きっかけづくりができないか検討してまいります。

多田(美)委員：生涯学習課の事業のひとつである明治大学・成田社会人大学は非常に良いと思いますが、内容が一部似ている印象もあります。これは、内容的には全く別の事業になるのでしょうか。芸能界では、60 歳と言えば藤井フミヤさん、豊川悦司さんという、還暦とは想像もつかないような方もいらっしゃいます。内容的には、そのような方々も踏まえたアクティブな内容にしてもいいのかなと思います。

事務局：明治大学・成田社会人大学は、受講料を一人 1 万円いただきますが、実際に大学で講義を行っている先生をお呼びし、大学生と同じような内容の講義を受けられるものとなっています。令和元年度は、国際社会課程、教養文化課程、ライフマネジメント課程の 3 つの課程があり、それぞれ 10 回の講義が行われました。社会人大学は、高度な学びを希望する方向けで 18 歳から受けられる事業です。生涯大学院につきましては、退職された方の仲間づくりや生きがい作りに重点を置きまして、60 歳からしております。

佐々木副委員長：令和 2 年以降の入学生が少ないのは、コロナの関係だと思います。課題としては、増えていない入学生を増やすにはどうすればいいか、ということですね。皆さんの意見を伺って感じましたが、生涯大学院は、趣味的なものを学びに来る場ではなく、もう一度大学で学生として 3 年間学びませんかというような趣旨をはっきりとさせ、全面にだす必要があるのではないかでしょうか。私は少し勘違いしていて、趣味のサークルのような感じで、学んでこようというものだと思っていました。リタイアして、もう一回大学に入学しませんかというのが目的でよろしいでしょうか。

事務局：開設の目的は、幅広い分野にわたる学習の機会を、高齢者に提供するとともに高齢者の生きがい作りを促進するということなので、大学院を強調しそうると敷居が高くなってしまうこともあります。また、仲間づくりを 3 年間かけて、じっくりとしていただくという考えもあります。卒業した後には、学んだことをボランティア活動などで地域社会に生かしていただくことを目的とした事業になっています。

佐々木副委員長：大学院ということにとらわれなくともいいのでしょうか。

事務局：そこまでかしこまってしまうと難しく感じてしまう人が多くなると思います。

佐々木副委員長：ありがとうございました。入学者を増やしていくなければならないとする

と、コロナの影響があるので仕方がないのではないかと思います。

多田(初)委員：細かくなりますが、入学者の人数と卒業者の人数が異なり、卒業者の方が2割程度少ないです。2割程度はやめているということなのでしょうか。  
また、定員100名ということは2クラスに分けているのでしょうか。

事務局：クラスは2クラスに分けています。令和元年度は入学者が52名でしたが、半分に分け、2クラスにして運営しました。また入学者と卒業者の人数の差についてですが、健康面での不安や、家庭の事情などで退学される方はいらっしゃいます。そのような事情で卒業者が減っています。

多田(初)委員：3年間にこだわっているかもしれません、入学したら最大3年まで継続できるといった形態も考えるなど、退学される方が多くならないようにできるとよいと思います。

事務局：年数などに関しましては、課内でも議論を深めたいと考えております。休学者に関しましては、復学もできますので、体調に不安がある際は休学し、体調が戻り次第、生涯大学院に復帰することも可能となっています。

鈴木委員：クラスのカリキュラムを見るとホームルームがございますが、具体的にどのような内容で行っているのでしょうか。また、各学年にテーマ学習という内容がございますが、具体的な活動内容を教えていただきたいです。

事務局：ホームルームに関しましては、自主的に話し合いなどをしていただき、授業とは別の部分で交流を深める時間として活用していただいております。また、テーマ学習ですが、学生さんの授業を受けてきた経験から、どのような授業をしたいかという案を出していただき、学生さん自身で授業を作り上げていくという内容です。

議事（2）の続きに入るため、事前情報として、生涯大学院のカリキュラムと、令和4年6月議会でいただいた一般質問について説明を行った。

佐々木副委員長：アンケートを実施しているとのことでしたが、カリキュラムの満足度はどうになっているのでしょうか。

事務局：卒業生に向けたアンケートは、とても満足、満足から、とても不満までの5段階評価で実施しております。半数以上の方に、とても満足・満足の回答をいただいている状況です。不満であった・とても不満であったという回答に関しましても2、3名程度いました。

佐々木副委員長：アンケートとしては十分ではないかと思います。

鈴木委員：生涯大学院は、社会教育、学校教育、生涯学習という分野で自己完結させていったとしても、もっと大きな効果を得ることができるのではないかと思います。それは、横の連携だと思います。色々なことを知りたいと考えるのは、どうしてなんだろうと思うことから始まると思います。そして、

それを調べます。調べてもわからない。だから、その先に生涯大学院や明治大学の事業がある。よし、やってみようと思います。勉強するということは、我が身のためですが、大きく考えると家族や世の中のためだと思います。私は幼稚園の園長をしておりますが、子どもたちから、これは何と尋ねられたら、ある程度は答えられます。私はこのために勉強したんだなと思います。生涯大学院での成果は習ったことを地域社会に還元できるということでした。孫や子どもの質問に答えるとお爺ちゃんすごいねと言われたり、昔の遊びを教えてあげられたり、生活の知恵を知っていたりというように、家庭教育や学校教育に横断的に使えるようなところではないかと思います。伝統的な遊び、読み聞かせ、おもちゃの修理などにボランティアとして派遣できる人材を育成する場を目指してもよいと思います。

事務局：生涯大学院のカリキュラムは地域に還元できるところを大事にして組まれております。また中には、他の方との連携よりも自己実現を目的として入学される方もいらっしゃいます。その両方を実現していくように考えたいと思います。

多田(美)委員：自分が65歳になったときにどのようなことをしたいかと考えると、探究学習、私は自分の好きなことを探求したい、学びたいと思います。できればそれを、SNSなどで情報発信できればいいなと考えています。好きなことを探求するためのやり方、学んだことをどのように伝えていくかなどをご指導していただきながら、学ぶこともいいのではないかと思いました。そのようなことも含めてカリキュラムを考えていただければと思います。

事務局：今言っていただいたように、特に専門講座は、深く学ぶきっかけづくりを意識してカリキュラムを用意しております。教養講座も専門講座も学びのフックとなるように考えております。

小林委員：生涯大学院のカリキュラムを見ますと、その目的が見えてこないように思います。例えば、園芸などは、1・2・3年生が同じカリキュラムですが同じことをするなら3年間もいらないように感じます。そのカリキュラムを受講することで、何をして、結果何ができるようになるのかがもっと分かるカリキュラムにするとよいと思います。

日暮委員長：私も同じように、カリキュラムを見て3年間でステップアップしているのが気がになりました。自分の3年後を見据えられる形のカリキュラムを作成していただければと思います。

事務局：専門講座に関しまして、3年間でステップアップしております。例えば、3年生が1年生に教えるというような連携も行っていることから同じ授業を行っている場合がございます。おっしゃっていただいたように、それぞれの講座の目的を明確にすることで、将来を見据えた意識にも繋がると思いますので、ご意見を参考にして、来年度以降のカリキュラム資料の作成

を行いたいと思います。

多田(初)委員：小学校に訪問することがあるようでしたが、入学の時から学んだことを活用し活動する場があることを知っているとよいと思います。

事務局：入学を希望される方向けに年度初めの説明会を開催しております。その際に、カリキュラムの内容でしたり、ボランティアとして小学校や介護施設などに訪問することの説明はさせていただいております。

関川教育長：学校側でも、カリキュラムを考えて作成し計画しているので、これをやつてくださいとお願いしても、反映するのは難しいと思いますので、あまり社会貢献を強調するのもよくないかと思います。社会貢献やボランティアを前面に出してしまうと、入学へのハードルがますます高くなるように感じますので、自分が満足した豊かな人生を送るために、自己実現にポイントを置くべきだと思います。学校との連携に関しては、学校側から人材の要望があれば要望に応えられる組織を作っていくみたいと思っております。

日暮委員長：私と生涯大学院のつながりを申し上げますと、豊住地区では豊住フェスティバルという敬老会を開催しており、歌や踊りの余興を楽しんでいただいている。生涯大学院の何期生かはわかりませんが、卒業した後も音楽サークルで活動を続け、毎年、出演してくれています。あと、私がやっているアルバイトに同じ年の方がいましたが、65歳になった年に、生涯大学院に入学するということで、アルバイトを辞めました。その方は、目的を持っていて、学ぶことも好きだし、新しい学びを見つけたいということで入学されました。その方は、自分にとっての学びを深める場でもあるし、新しい学びに巡り合えるチャンスだと捉えたと思いますが、こういうことがとても大事であると感じました。

### (3) その他

#### 《発言要旨》

9月10日に行われる「社会教育振興大会」についての説明と案内を行った。また令和元年度より実施を中止していた「社会教育委員・公民館運営審議会・図書館協議会合同視察研修」の本年度の開催の説明を行った。

## 6 傍聴

0名